

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):工学部電子情報工学科3年

参加プログラム: American and International Studies Program 派遣先大学: University of California, Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

University of California, Berkeley はアメリカ・カリフォルニア州に位置しており、最初にできたカリフォルニア大学である。世界最高の公立大学であると言われている。

留学した動機

UC Berkeley は間違いなく世界トップレベルの大学の一つであり、とりわけ私の専攻分野である電気・コンピュータ工学の分野では全米でも3本指に入るため、そこで勉強することは一生の財産になると確信していた。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部/修士/博士[3]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 休学/留学
- ③留学期間: 2014年8月 ~ 2015年5月 学部/修士/博士[3]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[3]年の[冬]学期から履修開始
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2016]年 学部/修士/博士[4]年の[4]月頃に(行った/行う予定)
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[117]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[46]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月卒業/修了
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由: 留学に向けた準備及び就職活動を考慮すると、学部3年次がベストであると感じたため。

留学の準備

- ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
かなり時間がかかるため、資料などはもらってすぐ熟読しておくべきだと思う。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
後回しにしていたら試験とかぶってしまい、かなり面倒なことになった。とにかく早めに取り組むことが良い(出発2ヶ月前に終わらせることが理想的)。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)
こちらも後回しにすると面倒なことになる。以前かかった病気の診断書などは早めに貰っておくべきである。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
AIUの留学用の保険に加入した。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
単位互換ができないので、手続きは休学に関することだけだった。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
TOEFLは足切り(iBT80点)を超えた後は受けていないため、スコアはそれほど良くない。留学が決まってからは、毎日Reading、Listening、Writingの練習をした。Speakingは独学ではできないので、ネイティブの人に教わった。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
一通り薬は持っていくべきだと思う。また、余裕があればインスタントの和食はあるといいと思う(例えば、味噌汁の素など)。

学習・研究について

- ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

[Fall Semester]

Introduction to International Studies
Political Economies in East Asia
Introduction to Statistics
[Spring Semester]
Data Structures
Introduction to Communication Networks
Signals and Systems

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

秋学期に取った政治系の授業では、よく言われるように、予習で読むべき講義資料の量がとにかく多かった。一方、復習は大事なところだけまとめといった程度でも良いかと思う。春学期に取った情報系の授業では、予習は必要ではないが、宿題の量が非常に多かった。このように学科に応じて勉強のスタイルは変わるが、共通しているのは学生に膨大な量の課題を与えることで学生の理解を高めようという気概が感じられる点だと思う。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期につき3つの授業を取った。1つの授業が4unitsであるため、1学期あたり12unitsであった。講義は基本的にレクチャーとディスカッションがセットで、それぞれ週3時間、1時間程度である。工学系はこれに実験が週数時間加わる。授業以外の学習時間は講義ごとに違いがあるが、どの講義も最低週6時間くらいは予習、復習にあてていたと思う。

④学習・研究面でのアドバイス

とにかくわからなかつたらきちんと聞きに行くことに尽きる。教授やTAはそのために存在しており、必ず助けてくれる。聞きに行くことそのものが英語の勉強にもなるので自らにとってメリットしかない。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

やはり英語でのコミュニケーションは難しかった。カジュアルな会話は慣れると楽になるが、アカデミックな会話には非常に苦勞した。自分のとるべき授業が決まっているのなら、日本語、英語の双方で出発前に軽く勉強しておくべきだと思う。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

留学プログラムで指定された International House というキャンパス付近の国際寮に滞在した。家賃は非常に高い。国際寮だけあって、いろいろな言語が飛び交う面白いところだった。しばしば寮でイベントも開かれたので、たまに参加した。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

Berkeley の気候は素晴らしく、夏は涼しく、冬は暖かかった。一年を通してほぼ 10~25°Cの中に収まっていたと思う。交通機関は比較的充実しており、San Francisco へは BART と呼ばれる地下鉄を使えば 30 分程度で行ける。キャンパス付近にはバスが通っていた。食事はやはり美味しくない上値段も高かった。特に寮のダイニングはひどかった。お金は基本的にクレジットカードを用い、現金はあまり使わなかった。日本で作ったものの他に、Bank of America の口座も開き、送金して貰う際に用いた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は概してよくないが、深夜に一人で出歩かなければそこまで問題ではない。医療機関は一度も使用していないので分からないが、疲れた時はしっかりと休むよう心がけた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

留学プログラムを通して大半の費用を払ったので、生活費は教科書代と娯楽費のみだった。月\$300も使っていないのではないかと思う。その分旅行で一気にお金を使った。

・留学に要した費用総額とその内訳

約\$45,000(航空費\$2,000、授業料\$16,000、寮費\$14,000、プログラム費\$7,500、教科書代\$300、交通費\$0、娯楽費\$4,000)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO・月8万円・東大の広告にて

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

課外活動ではゴルフをやりたいと思っていたのだが、残念ながら Berkeley にはなかつたため、結局課外活動はしていない。長期休暇は主に友人と旅行をしていた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポートはあまり使っていないが、定期的に留学プログラムによるミーティングがあったほか、有志の語学研修が大学により開催されており、しばしば参加した。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は朝早くから夜遅くまで開いており、使いやすかった。スポーツ施設も非常に充実していた。キャンパスには無料 wifi が通っており、非常に便利だった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

Berkeley MBA, Law School の学生やシリコンバレーの企業の社員など、社会人経験のある日本人と何度かお会いすることがあったが、共通しているのは自分の今後のキャリアについて深く考え、努力を重ねている点であると思う。世に氾濫する情報に惑わされずに、彼らの考え方を踏襲して就職活動を始めたいと思う。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

英語の試験(TOEIC, IELTS)を受けたほか、日本人会のキャリアイベントに何度か参加した。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学の意義はそれまでの自分の理解の範疇になかった経験をできることであると思う。世界各国から優秀な学生が集まってくる大学で勉強し、生活するという体験は日本では不可能である(むしろこれができるのは海外でもアメリカとイギリスだけかもしれない)。

②留学後の予定

夏休みの間は Berkeley で出会った MBA の方の立ち上げたスタートアップに参加することとなった。その合間を縫って英語の試験勉強を続ける。東大復帰後はアメリカ大学院進学を目指し、勉学に励むことになる。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

異国で勉強し、生活するという経験は私たちの見識をより深めてくれるものだと思うので、少しでも興味があるならば是非すべきだと思う。これほどまでにローリスクハイリターンな将来の自分に対する投資はなかなかない。金銭面、語学面を理由に諦めてしまう人間は多いが、これは非常にもったいないことであり、取りうる全ての手を打つべきだと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: UC Berkeley AISP 派遣先大学: University of California Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

米国でもトップレベルの総合大学。留学中は政治学と経済学の両方を学ぶ。

留学した動機

チャレンジングでアウェーの環境に身を置くことで、問題解決の能力を高めたかったこと。また、多様なバックグラウンドを持つ学生と本気でぶつかりあう経験を通して、自身の思考方法やコミュニケーションの手法をもう一度見つめ直したいと思ったことが主な動機です。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部 [3]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学

③留学期間: 2015年 8月～ 2015年 5月 学部 [3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 学部 [3]年の[A1]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2016]年 学部 [4]年の[4]月頃に(行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[58(経済学部)]単位

留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位 留学後の取得(予定)単位[30]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2017]年 [3]月 卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [5]年 [0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

専門課程(経済学部)へ進学して、ある程度学部での専門領域を学んだあと、かつ就職活動が本格化する前に留学したいと考えたため。休学しての留学を選んだ理由は、東京大学での学びを4年間享受したかったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特筆すべきことはありませんが、わからないことがある際は留学先のプログラム担当者の方に直接メールで質問することを勧めます。親切ですし、助けになると思います。住居となるInternational Houseでの部屋選びの手続きが一番面倒だと思いますが、一年間の住環境を決めるので早めに動いて手続きを頑張りましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特にありません。UC Berkeley から I-20 が届き次第、必要書類を揃えて早めに大使館に行きましょう。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にありません。カリフォルニアは気候も快適なので、常備薬のみ準備しておけば良いと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIUの長期海外留学保険に入りました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

交換留学ではないので、休学手続きに加え、経済学部ゼミでの単位分割手続きをしました。休学期間に関してですが、2015年度から4学期制になることをうけて、留学出発前に2014年3月までの休学手続きをした上で、さらに留学出発後2015年8月末までの手続きを改めて行いました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前の英語レベルはTOEFL iBTで88点。英単語、リーディング、リスニングに関しては日常的にトレーニングしていましたが、スピーキングは訓練が不足していたように思います。留学中、最初の1ヶ月半ほどはスピーキング能力の低さにかなり苦労しました。留学における学修の効果を最大化するという意味でも、留学前に時間の許す限り語学レベルを向上させておくことをお勧めします。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

留学の目的を明確化・言語化しておくことは必須だと思います。1年間という長い時間日本を離れて勉強するので、留学前にどれだけ動機付けをしておくかは、とても重要でした。また、奨学金に関しては早めに情報を集め、ぜひ応募しましょう。私は2014年から始まった「トビタテ留学奨学金」の第1期生として支援を受けていました。この奨学金プログラムの選考などについてもなにか相談があれば、連絡を頂ければと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※ そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

2014年秋学期

- American Politics 4 単位
- International Relationship 4 単位
- Political Economies of East Asia in Comparative Perspective 4 単位

2015年春学期

- American Foreign Policy Toward East Asia 4 単位
- Global Poverty and Impact Evaluation (Econometrics) 4 単位
- Public Economics 4 単位

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

政治学と経済学両方の授業を履修しました。授業についていくためには毎週の Reading を継続してこなす必要があるため、予習に最も時間をかけました。ディスカッションの授業が毎週ある上に課題の数が多いので、必然的に学習量は多くなります。グループで課題を解く機会も多く、自分自身の意見を他の人に明確に伝えるトレーニングになりました。印象に残った授業は2015年春学期に受講した計量経済学の授業です。扱う領域としては開発経済にあたりますが、途上国における政策の効果を定量的に分析する手法を学びました。理論だけでなく、実際に統計ソフトを使って幾つもの課題を解く機会がありとても刺激的で楽しかったです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり12単位(3教科)を履修しました。トータルでの授業時間は週12時間(160分/教科)。授業以外では Reading や課題をすべてこなしていたので、毎日最低でも6,7時間学習していました。特に前半の秋学期は、週末も一日中勉強していることが多かったです。後半になると要領を掴んでくるので、仲間と出かけたり、課外活動に取り組んだりしていました。

④学習・研究面でのアドバイス

私の場合、語学レベルで周りの現地学生に比べ常に遅れをとっていたため、履修したすべての教科で課題に取り組み良い成績を残そうと思うと、物理的に時間がかかりました。自分が学びたいと思う教科を履修し、学ぶことを楽しむ必要があると思います。楽しんだもの勝ちだと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

大量の Reading、ディスカッションで最初は苦勞しました。ただ自分なりの手法を見つけて毎日勉強を続けるうちに次第に要領をつかむようになるので、過度の心配はいらないと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

プログラムが勧める International House のダブルルーム(ルームメイト 1 名)に住んでいました。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は年間を通して乾燥・温暖で非常に過ごしやすいです。非常にアジア系の学生が多いこともあって、日本食を含めアジア料理を楽しむ場所もあり、食にも困りませんでした。毎日の食事は寮の食堂で済ませていたので、追加で食費はほとんど発生しませんでした。お金に関しては、アメリカの銀行に口座を作って管理していました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はとても良いです。健康管理のために週に2、3回は大学のジムで体を動かしていました。免疫をつけるという意味に加えストレス解消にもなるので、非常にお勧めです。

④ 留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

プログラム参加に際して一括で払うなかに住居費、食費が含まれていたため、追加費用は特段ありませんでした。

・留学に要した費用総額とその内訳

プログラム費用(含・寮での家賃および食費): \$37,000

その他費用: 約\$1,000

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

官民協働海外留学支援制度「トビタテ留学 JAPAN プログラム」の奨学生として留学しました。支給額は月 16 万円+授業料 30 万円+航空券代 20 万円 でした。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

私自身の留学計画のなかに、「長唄三味線を通した日本文化の伝達」が大きな軸として組み込まれていたため、日本発信には積極的に取り組みました。私が生活していた国際寮におけるコンサートにおいて、長唄の元禄花見踊りの抜粋を演奏、またソーラン節の舞踏に合わせて伴奏を演奏しました。特に前者では、三味線音楽がどのような背景で発達してきたのか、楽器自体の特徴などをプレゼンテーションすることにより、音を直感的に楽しんでもらうだけでなく、背後にある文化的知識についても共有できたと思います。

↑ 寮内でのコンサートにおける三味線演奏風景



派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

プログラム担当者の方は親切で、相談事に乗っていただきました。ただ幸いにも、生活、精神面で大きなトラブルを抱えなかったため、サポートを得る機会がありませんでした。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は何度も使いました。キャンパスにいくつもあるので大変便利です。大学のジムでの運動は、健康管理に大変役立ちました。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

他国からの留学生と話をするなかで、自分自身がどんな業界で働きたいのか、何をしているときに幸福を感じるのかなど、じっくり考える機会をもつことができ、就職に対する考え方は大きく変わりました。ここで全ては書ききれないので、内容は割愛します。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

2015年のインターン情報をインターネットで調べていました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職
- 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
- 3.公的機関(機関名:)
- 4.非営利団体(団体名又は分野:)
- 5.民間企業(企業名又は業界:)
- 6.起業(分野:)
- 7.その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学全体を通じて、自分自身の弱みが浮き彫りになった。私は「あなたはどう思うのか」という問いに対して、瞬時に的確に論理を構築して答える、という能力が海外学生と比較して著しく低いことに気がつきました。教科書で正しいとされることをインプットし、単純にアウトプットするに留まらず、その上でどんな Opinion を自身は持つのかについて思考し訓練する機会をたくさん得ることができました。さらに同じピックについて異なる観点を持つ海外大生と議論を交えることによって、また、政治と経済の横断的な学修を通して、限られた議論の枠組みのなかで物事を考える態度から、複眼的思考で考える態度へと変化していったことは成果でした。英語でのコミュニケーションについては、留学当初よりも自然にできるようになりましたが、細かいニュアンスを伝えるという点では苦勞が絶えませんでした。しかし、学問という共通言語を理解しその上で議論するうえで問題はなく、広がりを感じつつ高度な学修に取り組めたことは非常に大きな財産になりました。

② 留学後の予定

大学での残り1年半の学修に全力で取り組むだけでなく、自分自身の将来のキャリアに関わる就職活動にも精一杯取り組みます。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

非常に稀で貴重な留学というチャンスを楽しみ、学びを最大化するために、目標と意味を明確にして望むことを強く勧めます。また、事前準備など周りの学生と異なる行動を取らねばならないことにストレスを感じることもあるかもしれませんが、その先の経験に対する投資行動だと思って前向きに取り組みましょう。なにか相談があれば、いつでも受け付けますので、以下のアドレスに気軽に連絡を頂ければと思います。

[佐竹佑基: y.satate24@gmail.com]

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

『海外の大学・大学院で授業を受ける技術』著:川手 ミヤジェイエフスカ恩

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。